

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400951
法人名	生活クラブやまがた生活協同組合
事業所名	グループホーム結いのき
訪問調査日	平成 21 年 4 月 13 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	670400951		
法人名	生活クラブやまがた生活協同組合		
事業所名	グループホーム結いのき		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市花沢町2695-4 (電 話) 0238-37-0960		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年4月13日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】(平成21年 3月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 18人, 非常勤	2 人, 常勤換算 19 人

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独		新築／改築
建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800 円	その他の経費(月額)	光熱水費 525円(1日)
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円 (おやつ込み)		

(4) 利用者の概要(3月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	1 名	女性	26 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	1 名	要介護4	7 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 70 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中クリニック 米沢市立病院 三友堂病院 舟山病院 村山歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上杉謙信公で名高い米沢に、16年程前、生活協同組合助け合い活動「たくろう所」を開所し、これまでの実績を基盤として開設された事業所です。市役所、スーパー、消防署、病院も近くにあり、緊急時に対応しやすい。又、地域の一員として交流ができる場所に立地されている。米沢生協組合員から「ホームを支える会」が結成されて「ボランティアに支えられ食の安全や環境問題などにも考慮し、利用者一人ひとりが歩んできた人生や価値観、生活を尊重しながら懸命に支援されているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 災害対策は課題検討し、運営推進会議を通して地域の方にも依頼し、年2回の訓練を実施している。夜間想定訓練の早期取組みが望まれる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各ユニット長、ケアマネージャー、職員からは少し聞き取りを行い、作成されたものを全職員が目を通した形となっている為に、職員間の意識合わせが図られていないように感じられる。自己評価は全職員で取り組み、外部評価の結果を踏まえ、サービスの質の向上につなげていく事に期待されたい。
	重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、外部評価の公表も行われており、会議では防災に関する要望、意見等も多く、サービスの質の向上につなげていく事に期待されたい。
	重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時、又電話で意見要望を聞く機会を設けている。出された意見要望は、ホーム長を通し、ユニットミーティングで共有しながら運営に反映させている。
重点項目④		日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 園児達の歌の披露や週に一度、支える会のボランティアで行なわれる催し物も多くあり、運営推進会議を通して地区の敬老会、初夏の昼食会に参加している。ホームの職員による地域での介護技術教室の取組みも検討されており、事業所と地域の人々が支えあう双方関係が図られている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前から行なっている「たろう所」の理念を基本としており、地域の中でその人らしく暮らし続けることを大切に考え、地域密着型サービスとしての理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はユニット毎、目に留まるところに掲示しており、日々の関わりの中で迷いなどがある場合は、「理念に戻る」ということを認識し、内部研修でも再確認し日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	園児達の歌の披露や週に一度、支える会のボランティアで行なわれる催し物も多くあり、運営推進会議を通して地区の敬老会、初夏の昼食会に参加している。ホームの職員による地域での介護技術教室の取組みも検討されており、事業所と地域の人々が支えあう双方関係が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット長、ケアマネージャー、職員からは少し聞き取りを行い、作成されたものを全職員が目を通した形となっている為に、職員間の意識合わせが図られていないように感じられる。	○	自己評価は全職員で取り組み、外部評価の結果を踏まえ、サービスの質の向上につなげていく事に期待されたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、外部評価の公表も行われており、会議では防災に関する要望、意見等も多く、サービスの質の向上につなげていく事に期待されたい。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度訪問し、事故の報告、運営上の疑問等、サービス内容のアドバイスを受けながら連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	昨年の改善課題として検討されているが、利用者の健康面、暮らしぶり等を担当者が手紙で一人ひとりの家族に合った報告の形になっており、各ユニット全部おたよりに捉われずに良いのではないかと考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、又電話で意見、要望を聞く機会を設けている。出された意見、要望は、ホーム長を通し、ユニットミーティングで共有しながら運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は担当制になっており、移動がある場合は早朝から職員の確保を考慮し、馴染みの関係になるまで担当は3人の職員で関わる等ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、福祉用具に関する事、褥瘡予防、ベットの移乗等の研修を行い、外部の研修では、グループホーム全国大会に毎年2名参加し、報告は記録でユニット毎に閲覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅介護支援事業所、福祉用具業者からの情報により、専門的な講習や研修の機会は設けているが、相互訪問や勉強会等の交流が少ないように感じられる。	○	地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通してサービスの質の向上につなげていく事に期待されたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	[小規模多機能型居宅介護のみ] ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴から一人ひとりの特技を把握し、食事の準備、調理、洗濯物干し、たたみ等、また人生の先輩である事を職員は心がけている。毎月、全体目標(職員の努力)ユニット毎の目標(利用者一人ひとりに合わせて)を掲げており、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし支え合う関係ができています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話などから本人の思い、気づきを見逃さずに汲みとり、家族の意向にも耳を傾けミーティングで共有しながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画を作成しており、当初のアセスメント方式を改め、センター方式の一部を活用し、ユニットミーティングにおいてユニット職員全員で話し合い、取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定更新時期に関わらず、定期的にモニタリングを行ない、変化に応じて本人、家族、必要な関係者と話し合いを持ち、臨機応変に介護計画の見直しがされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	[小規模多機能型居宅介護のみ] ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	受診時は主に職員が付き添い、受診結果に関する情 報の共有が出来ており、主治医や医療機関の担当医 とは情報交換や関係作りができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族の協力を得ながら、状況変化に応じた繰り返しの 話し合いの場を持ち、指針の統一を図りながら支援に つなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	プライバシーを損ねない為にも日々の生活の中で目立 たず、さりげない言葉かけや対応に配慮した関わりが できている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを捉えながら、本人が何をし たいのかどう思っているのかを職員で共有し、個別性 のある支援を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に出来ていた食事の手伝い等も年々出来なくなることが増え、見直しと共にその日の食事を職員と利用者が同じテーブルを囲んで旬の物に話題を向けたり雰囲気づくりを大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を原則としているが、拒む人に対しては体調やタイミングを見て、入浴前に軽い運動や散歩を試みたり、無理のない対応となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	マンネリ化を防ぐ為にも、支える会の行事への参加や各ユニット毎に目標をたてて職員全員が関わり、一人ひとりにあった楽しみごとを作り出す支援ができている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や本人の気分、体調に合わせ、買い物やドライブの他にホームを一周できる遊歩道の散歩や道路向い側に設けられたデイサービスセンターへの訪問など戸外で気持ちよく過ごしてもらう工夫がみられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの外出の癖や傾向をつかみ、出たがる利用者には職員が見守りながら出かけたり、事故再発防止の為にかけた場所を確認する等全員で共有しており、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	改善課題を検討し、運営推進会議を通して地域の方にも協力依頼し、実践的な訓練を年2回行い、倉庫を利用し備蓄はされているが、夜間を想定した訓練にまだ至っておらず、職員各自のシミュレーションや机上訓練などを随時行ない、早期訓練の取り組みに期待されたい。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、バランス、飲水量の確認をしながら利用者の生活リズムを考慮し摂取時間や回数、介助の方法、食器類の工夫など様々な面からの支援ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はキッチンアイランド式になっており、食器を洗う音、野菜刻みや調理の匂いがあり、自宅の延長を思わせ、五感や季節感を取り入れた工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい居室づくりとして、本人の意向に合わせてベッドを真中に置き、周囲を歩行できるよう配置換えしたり、担当者との信頼関係を築きながら居室作りの工夫が見られる。		